

# 『おそ松くん』のキャラクター・イヤミが使うザンスの分析

言語学・応用言語学専門分野

1LT14097N

2014年（平成26年）入学

中島結香

2018年（平成30年）1月提出

## 要旨

金水(2003:188)は、登場人物の台詞に手っ取り早く個性を加える表現方法として発話の最後に付けた特定の語尾を「キャラ語尾」と名付けた。本論文では、赤塚不二夫原作の漫画『おそ松くん』に登場するキャラクター・イヤミが特徴的に使用するキャラ語尾である「～ザンス」という表現に注目し、ザンスはゴザイマスと由来を同じにすると考えられるため、イヤミの使うザンスがゴザイマスと同じ文法機能をもつかどうかを分析した。分析の結果、イヤミの使うザンスはゴザイマスとは大きく異なる文法機能を持つことがわかり、どのように異なるかとザンスが持つ文法的特徴をまとめた。

# 目次

1. はじめに .....	1
1.1. 『おそ松くん』について .....	1
1.2. 考察対象 .....	1
1.3. ザンスの由来 .....	2
2. ザンスの承接 .....	4
2.1. 名詞や副詞に後続する .....	4
2.2. 動詞の終止形に後続する .....	4
2.3. 動詞の命令形に後続する .....	4
2.4. 形容詞や否定の「～ない」に後続する .....	4
2.5. 助動詞の「う・よう」「せる」「れる」「らしい」に後続する .....	5
2.6. 助詞「から」「だけ」「かしら」「だけ」「ばかり」に後続する .....	5
2.7. 感動詞「おはよう」「ありがとう」「いただきます」に後続する .....	5
2.8. ザンスの後ろに助詞がつくとき .....	5
3. ザンスとゴザイマスの違い .....	7
3.1. ゴザイマスの用法とザンスの現れ方 .....	7
3.2. ザンスの「ダ」「デス」「ゴザイマス」との言い換え .....	7
3.2.1. 「ダ」「デス」「ゴザイマス」全て言い換えができないとき .....	7
3.2.2. ザンスが「ダ」「ノダ」で言い換えられないとき .....	8
3.2.3. デスのみ言い換えられるとき .....	8
3.2.4. 「ゴザイマス」のみ言い換えられるとき .....	9
3.3. 丁寧語としてのザンス .....	9
4. ザンスの持つ性質 .....	11
4.1. ノダ文におけるザンス .....	11
4.2. 助動詞としてのザンス .....	13
4.3. 終助詞としてのザンス .....	13
4.4. ノダと終助詞 .....	14
4.5. 文法機能を持たないザンス .....	15
5. ザンスの変化形 .....	17
5.1. 「ザンした」 .....	17
5.2. ザンシヨ .....	18

6. まとめ .....	19
--------------	----

## 1. はじめに

### 1.1. 『おそ松くん』について

まず、『おそ松くん』という作品について紹介する。Wikipediaによると、『おそ松くん』は赤塚不二夫による漫画で、おそ松を長男とする六つ子である松野兄弟やその周囲の人々のドタバタな日常を描いたギャグ漫画である。もともとは全4回の短期連載の予定だったが、爆発的な人気を受け、最初は1967年から『週刊少年サンデー』で連載され、のちに『ボーイズライフ』や学年誌、1972年から1973年まで『週刊少年キング』と、掲載先を変えながらも長期連載を果たした。第10回（昭和39年度）小学館漫画賞受賞し、テレビアニメが1966年と1988年の2度放送され、月曜ドラマランド（フジテレビ）にて実写版も製作された。また、2015年に第1期、2017年には第2期が、原作者である赤塚不二夫の生誕80周年記念として、大人に成長し個性<sup>1</sup>を持った六つ子たちが活躍する続編のテレビアニメ『おそ松さん』が製作され、こちらも爆発的な人気を博した。

イヤミは、その名の通り嫌味なキャラクターであり、あらゆるイタズラや嫌味な言動・悪事を行った末に、しっぺ返しを食らうオチとなることが多い。一人称は「ミー」、二人称は「チミ」「ユー」で、語尾に「～ザンス」をつけて話す。初登場話では医師の役で名前のない脇役であったが、その後六つ子の父親松造の同僚「井矢見」として再登場し、レギュラーキャラとなった。イヤミのギャグ「シェー」は国民的な流行語となり、『週刊少年キング』版では、実質主役扱いのキャラクターとなった。赤塚不二夫著『これでいいのだ。－赤塚不二夫対談集』（メディアファクトリー、2011）では、トニー谷（1917年〈大正6年〉10月14日 - 1987年〈昭和62年〉7月16日）という人物がイヤミのモデルであると語られている。トニー谷は、「さいざんす」「おこんばんは」等の独特のしゃべり方で昭和20年代～30年代に爆発的な人気を博した舞台芸人である。

### 1.2. 考察対象

データ収集は、竹書房出版の文庫版コミック『おそ松くん』全22巻を対象とし、最初に「井矢見」として登場するのは第4巻からだだが、「～ザンス」という表現が頻出し始めるのは第7巻からである。そのため、第7～22巻の中から937文の例文を抜きだした。その際、第13巻からは同じような種類の台詞<sup>2</sup>は省略した。

本論文では、イヤミの台詞において「～ザンス」という表現にのみ注目し、データ収集

---

<sup>1</sup> 『おそ松くん』に登場する小学生の六つ子たちは性格がほとんど同じで外見の見分けがつかないが、『おそ松さん』で20歳を過ぎて大人になった六つ子たちはそれぞれ異なった性格とキャラクターデザインで個性を持つようになった。

<sup>2</sup> 例えば、「動詞の終止形+ザンス」の例文は13巻までに多く集まったため、以降は収集を省略している。

と考察の対象とした。第7巻からでもイヤミのすべての台詞に「～ザンス」という語尾がつくわけではなく、登場初期はザンスをつけない台詞も多く、話数を追うごとにザンスがついた台詞が増えていっており、「語尾にザンスがつく」というイヤミのキャラクター性は徐々に定着していったことがわかる。イヤミは、おそ松たちの学校の教師や父親の会社の同僚、時に上役、あらゆるインチキ商売、乞食、こそ泥、刑事など様々な役どころで登場するが、基本的に語尾にザンスがつくしゃべり方は変わらない。しかし、第19巻収録で西部劇を思わせるようなストーリー設定の「シェリフ チビータは勇者だった」の回で、クールで実力のあるガンマン役でイヤミが登場した際には、イヤミのトレードマークといえる語尾にザンスがつくしゃべり方ではなく、いわゆるガンマンの役どころにふさわしいしゃべり方<sup>3</sup>をしていた。この回でのイヤミは本来の「嫌味で、ケチで、下品な」キャラクターとはかけ離れた「子供に優しく、それでいてクールなカッコいい」キャラクターであったため、イヤミをキャラクター付けるザンスがあえて出てこなかったのではないかと考察する。

その他イヤミの特徴的なしゃべり方として「～してちょ」<sup>4</sup>という表現が出てくるが、本論文では触れず、ザンスのみを考察対象とする。

### 1.3. ザンスの由来

金水（2003）では、江戸時代の遊女の独特の言葉づかいとして、1770(明和7)年頃刊の『遊子方言』からの一節にある「なんす」「おざんす」という遊女ことばを紹介している。金水（2003）は、このような遊女の話し方を、非常に特徴的だが、客に対しては極めて丁寧な表現を用いていたとしている。以下が『遊子方言』の一節で、「部屋持」というのが遊女である。

- (1) **部屋持** もうお帰りなんすのかへ **むすこ** あい **部屋持** もちっとみなんせ。まだはようおざんす **通り者** もしわたしをばなせとめなさんせん **部屋持** おまへをばぬしがとめなんしよから、わたしがとめ申さずと、ようおざんす

〈金水 2003: 140／「遊子方言」三六二頁。表記は少し改変〉

「ようおざんす」は、形容詞「よい」のウ音便形「よう」に「おざんす」がついて丁寧な表現となっていることから、「ようございます」と同様の丁寧表現と考えられる。

---

<sup>3</sup> ザンスが語尾につかずキザなしゃべり方をしている。

(i) あいにくくもりで日の出がみえなかったんでね（『おそ松くん』第19巻42ページ）

<sup>4</sup> ザンスがつかず、「～してちょ」という口調のイヤミの台詞が(ii)。

(ii) きみはバレエの天才だ！！ぜひ天女をやってちょ！！

また、笹間（2010）では、「『御座ります』というのを江戸っ子は語勢よく『ござんす』と言った。」とあることから、「ザンス」は「御座ります」の音変化であることがわかる。同様に、「ゴザイマス」も「御座ります」の音変化であると考えるのが自然である。

## 2. ザンスの承接

2章は、ザンスがどのような表現に後続するかをまとめたものである。ザンスは様々な品詞に後続し、特にザンスが後続するうえでの制限などはみられなかった。(2)の横の(7:57)は、『おそ松くん』第7巻57ページからの引用を表す。以下同様である。

### 2.1. 名詞や副詞に後続する

- (2) a. さあ、あしたはいよいよ発表会ザンス！！ (7:57)
- b. ヒイ…いまのはしっばいザンス (7:59)
- c. こんな家はじめてザンス (7:161)
- d. きみ<sup>5</sup>たちいかがザンス (8:32)

### 2.2. 動詞の終止形に後続する

- (3) a. これからまじめにやるザンス (7:72)
- b. その時計くるってるザンス (8:35)
- c. あとでおでんかってやるからがまんするザンス (7:104)
- d. とうとうメチャクチャになったザンス (7:69)

### 2.3. 動詞の命令形に後続する

ザンスが動詞に後続するとき、ほとんどが終止形に後続するなかで命令形に後続するのはまれである。

- (4) a. おーい、きみたちちよっこいザンス (8:11)
- b. はやくにえろザンス (9:128)

### 2.4. 形容詞や否定の「～ない」に後続する

- (5) a. だから坂にはつよいザンス (7:130)
- b. ミーもいたいザンス (7:165)
- c. これじゃ仕事ができないザンス (8:32)
- d. おや、ダイヤのゆびわしないザンスか？ (8:50)

---

<sup>5</sup> 1章でイヤミの二人称は「チミ」「ユー」と紹介したが、「きみ」「おまえ」等で相手を呼んでいることも少なくない。



## 2.5. 助動詞の「う・よう」「せる」「れる」「らしい」に後続する

- (6) a. ではいこうザンス (8:32)
- b. マスターなかよくしようザンス (8:91)
- c. お時間もよろしいようザンス (14:188)
- d. どこにいてもことわられるザンス (8:86)
- e. なんてミーにかんけないことやらせるザンス (8:135)
- f. こしょうらしいザンス (9:80)

## 2.6. 助詞「から」「だけ」「かしら」「だけ」「ばかり」に後続する

- (7) a. こうなったのもおまえがボンヤリしてたからザンス (8:129)
- b. あとはぼくはつをまつだけザンス (9:79)
- c. しんじていいのかしらザンス (10:127)
- d. 火をつけてもらっただけザンス (13:13)
- e. チビ太<sup>6</sup>!! これじゃそんするばかりザンスよ!! (13:151)

## 2.7. 感動詞「おはよう」「ありがとう」「いただきます」に後続する

- (8) a. おはようザンス (7:126)
- b. おありがとうザンス～ (9:210)
- c. いただきますザンス (21:100)

## 2.8. ザンスの後ろに助詞がつくとき

ザンスは主に文の最後のほうにくるが、ザンスのうしろに助詞がつくことも多い。(10)のようにザンスが文中に現れる例文もデータ中2文みられた。

- (9) a. いまちょうどいいとこザンスよ (7:70)
- b. おくさん気がきくザンスね (7:170)
- c. いったい六つ子はなんてかいたザンスかね? (8:46)
- d. おや?おでかけザンスか? (8:50)
- e. なにしろミーはかねもちザンスからね (11:119)

---

<sup>6</sup> 六つ子たちのライバルであるレギュラーキャラクター。作中ではイヤミの子分になっていたり、逆に敵になっていたりする。

- f. といつてもしかたないザンスがね… (22:20)
- (10) a. あやまるザンスからチビ太をはなしてちょ！！ (11:11)
- b. タチのわるいお客ザンスからなにかあったらいつでもミーをよんでちょ！！  
(15:225)

### 3. ザンスとゴザイマスの違い

3章では、ゴザイマスの用法とイヤミのザンスの現れ方が一致しないこと、ザンスの「ダ」「デス」「ゴザイマス」の言い換えが必ずしもできないこと、ザンスがゴザイマスと同様に丁寧表現として現れていないことを述べ、イヤミのザンスとゴザイマスとの違いをまとめている。

#### 3.1. ゴザイマスの用法とザンスの現れ方

(11)はゴザイマスが動詞「ある」の丁寧語である例文であり、(12)は形容詞連用形のウ音便について、(13)は「でございます」の形で断定や状態を表す補助動詞の丁寧語である例文である。

データ中では、イヤミの使うザンスは動詞として現れなかった。また、(14)のように形容詞の後ろにつくことはあっても前接する形容詞がウ音便形になっていることはなかった。

(11) 机の上でございます。  
机の上にある。

(12) 9月も半ばを過ぎましたのに、まだまだ暑うございますね。  
9月も半ばを過ぎましたのに、まだまだ暑いね。

(13) こんなことははじめてでございます。  
こんなことははじめて{だ/です}。

(14) a. だから坂にはつよいザンス (7:130)  
b. ミーもいたいザンス (7:165)

#### 3.2. ザンスの「ダ」「デス」「ゴザイマス」との言い換え

「～(デ)ゴザイマス」は、「～ダ」の丁寧形「～デス」よりもさらに丁寧な言葉遣いであるが、イヤミの使うザンスは必ずしも「ダ」「デス」「ゴザイマス」で言い換えることはできない。

##### 3.2.1. 「ダ」「デス」「ゴザイマス」全て言い換えができないとき

(15) a. こまったザンス (7:60)  
こまった{\*だ/\*です/\*でございます}

- b. さあ はじまるザンス (7:63)  
 さあ はじまる{\*だ/\*です/\*でございます}
- c. いいところへきたザンス (10:176)  
 いいところへきた{\*だ/\*です/\*でございます}

### 3.2.2. ザンスが「ダ」「ノダ」で言い換えられないとき

ザンスの後ろに疑問の終助詞「カ」が来る場合、ザンスを「ダ」「ノダ」で言い換えることができない<sup>7</sup>。

- (16) a. おや？おでかけザンスか？ (8:50)  
 おや？おでかけ{\*だ/です/でございます}か？
- b. これがミーのかおザンスか～ (10:39)  
 これがミーのかお{\*だ/です/でございます}か～
- c. そんなにボロザンスかねえ… (11:118)  
 そんなにボロ{\*だ/です/でございます}かねえ…
- d. いったい六つ子はなんてかいたザンスかね？ (7:46)  
 いったい六つ子はなんてかいた{\*のだ/のです/のでございます}かね？
- e. いうこときかないザンスか！！ (9:58)  
 いうこときかない{\*のだ/のです/のでございます}か！！
- f. どうしてうそをつくザンスか？ (9:164)  
 どうしてうそをつく{\*のだ/のです/のでございます}か？

### 3.2.3. デスのみ言い換えられるとき

ザンスの直前要素が、形容詞や否定の「～ない」、助動詞「らしい」のとき「デス」のみ言い換えができる。データ中では、ザンスの直前に現れる形容詞は連用形のウ音便形で

---

<sup>7</sup> 「ダ」「ノダ」で言い換えることができないのは、断定の助動詞「ダ」と疑問の終助詞「か」が共起できないためであるが、「ダ」と「か」が共起できないことについては泉谷（2009）を参照されたし。

現れないため、ゴザイマスが接続することができない。

- (17) a. だから坂にはつよいザンス (7:130)  
だから坂にはつよい{\*だ/です/\*でございます}
- b. きょうはきかいのちょうしがよくないザンス (7:103)  
きょうはきかいのちょうしがよくない{\*だ/です/\*でございます}
- c. 代金いただきたいザンス (8:87)  
代金いただきたい{\*だ/です/\*でございます}
- d. いやなおもいをさせてわかったザンス (8:135)  
いやなおもいをさせてわかった{\*だ/です/\*でございます}
- e. ミーは一口もたべられなかったザンス～ (8:237)  
ミーは一口もたべられなかった{\*だ/です/\*でございます}

### 3.2.4. 「ゴザイマス」のみ言い換えられるとき

「ゴザイマス」のみ言い換えられるのは、以下の2例のみだった。一般的に「ありがとう」に「お」をつけて用いないが、「ありがとう」に「ゴザイマス」をつけて丁寧とするのは自然であるため(18)bは容認可とする。

- (18) a. おはようザンス (8:19)  
おはよう{\*だ/\*です/ございます}
- b. おありがとうザンス (9:210)  
おありがとう{\*だ/\*です/ございます}

### 3.3. 丁寧語としてのザンス

イヤミの使うザンスは、本来の丁寧な表現としては現れておらず、どのような立場の者と話しても語尾にザンスがつくしゃべり方は変わらない。丁寧な言葉遣いで話すときは、(19)のようにザンス以外の語が丁寧表現となっている。

- (19) a. 社長 およびザンスか? (10:189)  
b. かしこまりましたザンス (20:220)

東(2009)は、「股旅ものやくざ」が話す言葉に「あっし」や「ござんす」といった語彙が特徴的に見られ、昭和初期の講談・浪曲に登場するやくざは「あっし」や「ござんす」をへりくだる場面・丁寧表現として使用しているが、近年では、やなせたかし原作の『アンパンマン』に出てくる「おむすびまん」の例のように、「あっし」や「ござんす」が丁寧表現の必要のない場面でも使用されるようになっており、丁寧表現という本来の用法を超えて、股旅風というキャラクター性を特徴づけるためだけに用いられる「キャラ語尾」へと変化してきていると述べている。イヤミの場合も「ザンス」がキャラクター性を特徴づけるものとなっている。

## 4. ザンスの持つ性質

イヤミのザンスは本来の丁寧表現として現れていないが、キャラクター性を特徴づけるためだけに用いられているわけではない。4 章では、イヤミの使うザンスのゴザイマスにはない文法機能をまとめている。

### 4.1. ノダ文におけるザンス

「動詞の終止形+ザンス」で命令の意味を持つ台詞がデータ中に現れた。この場合ザンスは「ノダ（ノデス）（ノデゴザイマス）」と言い換えることができ、「ノダ命令文」<sup>8</sup>となる。ノダ命令文のとき、ザンスが $\phi$ であると命令文として容認できないため、ザンスは「ノダ」の性質を持つ。

- (20) a. (イヤミが、チビ太にインチキで金儲けをする手伝いを続けさせようとする場面で)

あとでおでんかってやるからがまんするザンス！！ (7:104)

あとでおでんかってやるからがまんする{のだ/のです/のでございます}！！

\*あとでおでんかってやるからがまんする{ $\phi$ }！！

- b. (イヤミが、弱みを握ったチビ太に言うことをきかせようとする場面で)

けいさつがいやならミーのいうこときくザンス (8:121)

けいさつがいやならミーのいうこときく{のだ/のです/のでございます}

\*けいさつがいやならミーのいうこときく{ $\phi$ }

収集したデータの中で命令文は 31 文あり、そのうちノダ命令文が 23 文、命令形命令文が 8 文でてきた。これらを比較すると受けるイメージとしては、「命令形命令文+ザンス」のほうがより強要力がある台詞に感じるが、発話状況やイヤミの心情によって命令形命令文とノダ命令文が使い分けられているとは見受けられなかったため、動詞の命令形という表現そのものに強要力の強さを感じるだけと考えられる。

- (21) a. はやくとぶザンス (9:58)

- b. さあさあ はくじょうするザンス (9:156)

- (22) a. ミーについてこいザンス (9:76)

---

<sup>8</sup> ここでは、「～ノダ」の形で「～しろ」という命令の意味を持つ文を「ノダ命令文」としている。

b. はやくにえろザンス (p:128)

命令文だけではなく、疑問文あるいは強調、決意、詰問、願望、解釈、提案などの意味を表すとき、ザンスをノダに言い換えて「ノダ文」にすると、より自然な文になる例文がみられた。ザンスが $\phi$ でも文として容認はできるため、命令文ほどザンス(=ノダ)が大きな意味合いをもっていないことがわかる。ただし、提案の意味を表すときは、ザンスが $\phi$ のとき文の容認ができない。

- (23) これからどこへいくザンス？[疑問文] (7:102)  
これからどこへいく{のだ/のです/でございます}？  
これからどこへいく{ $\phi$ }？
- (24) きみたちにおねがいがあるザンス！！[強調] (11:63)  
きみたちにおねがいがある{のだ/のです/でございます}！！  
きみたちにおねがいがある{ $\phi$ }！！
- (25) (独話で) ぜったいまもるザンス！！[決意] (16:210)  
ぜったいまもる{のだ/のです/でございます}！！  
ぜったいまもる{ $\phi$ }！！
- (26) このかおどうしてくれるザンス！！[詰問] (17:189)  
このかおどうしてくれる{のだ/のです/でございます}！！  
このかおどうしてくれる{ $\phi$ }！！
- (27) ミーはほんとの犯人がしりたいザンス！！[願望] (8:131)  
ミーはほんとの犯人がしりたい{のだ/のです/でございます}！！  
ミーはほんとの犯人がしりたい{ $\phi$ }！！
- (28) (イヤミが、六つ子たちとチビ太が集まって話しているのをみかけた場面で)  
またわるいそうだんしてるザンスね[解釈] (11:195)  
またわるいそうだんしてる{のだ/のです/でございます}ね  
またわるいそうだんしてる{ $\phi$ }ね
- (29) (家のないイヤミが、刑務所に入って冬を乗り切るためにどんな悪いことをしようか考えている場面で)



よそのパーティーでただぐいしてつかまるザンス[提案] (12:214)  
よそのパーティーでただぐいしてつかまる{のだ/のです/のでございます}  
\*よそのパーティーでただぐいしてつかまる{φ}

#### 4.2. 助動詞としてのザンス

3.2 節で、ザンスが必ずしもダ・デス・ゴザイマスで言い換えることはできないと述べたが、ザンスの直前要素が、名詞や副詞、助詞「から」「だけ」「ばかり」のときなど、通常ダ・デス・ゴザイマスが接続するのに自然な場合は、言い換えに支障がない。このとき、ザンスは「ダ」と同じく断定の助動詞の性質を持つことになる。(30)のように、もともと助動詞の「ようだ」「そうだ」の「だ」がザンスとして現れているために、言い換えがスムーズになっている例文もみられた。

- (30) a. さあ、明日はいよいよ発表会ザンス (7:57)  
さあ、明日はいよいよ発表会{だ/です/ございます}
- b. こんな家はじめてザンス (7:161)  
こんな家はじめて{だ/です/ございます}
- c. こうなったのもおまえがボンヤリしてたからザンス (8:129)  
こうなったのもおまえがボンヤリしてたから{だ/です/ございます}
- d. あいさつしにきただけザンス (9:167)  
あいさつしにきただけ{だ/です/ございます}
- e. チビ太！！これじゃそんするばかりザンスよ！！  
チビ太！！これじゃそんするばかり{だ/です/ございます}！！
- (31) a. お時間もよろしいようザンス (14:188)  
お時間もよろしいよう{だ/です/ございます}
- b. どうやらあの男にきまりそうザンスね (8:209)  
どうやらあの男にきまりそう{だ/です/ございます}

#### 4.3. 終助詞としてのザンス

ダ・デス・ゴザイマスで言い換えができない例文は、終助詞で言い換えることができる場

合がある。ザンスを終助詞で言い換えたときとφのときでは、前者のほうがより自然な文になるか、どちらとも容認度に差がない。よって、ザンスは終助詞としての性質も持っていることになる。(15)を(32)として再掲する。

(32) a. (独話で)こまったザンス (7:60)

こまったな  
こまった{φ}

b. (六つ子に向かって)さあ はじまるザンス (7:63)

さあ はじまるよ  
?さあ はじまる{φ}

c. (六つ子に向かって)いいところへきたザンス (10:176)

いいところへきたね  
いいところへきた{φ}

(33)は「否定の～ない+ザンス」で命令を表す例文で、ザンスは「こと/の」で言い換えることができる。森川(2013)は、文末が「こと/の」で、下降調のイントネーションであるとき文は命令文と解釈され、平板あるいは上昇調となると、平叙文、感嘆文、疑問文と解釈されると述べている。[∨]は下降調のイントネーションを表す。

(33) a. あわてないザンス (12:137)

あわてない{の/こと} [∨]  
?あわてない{φ} [∨]

b. よけいなことはいわないザンス (16:91)

よけいなことはいわない{の/こと} [∨]  
?よけいなことはいわない{φ} [∨]

#### 4.4. ノダと終助詞

4.1 節のノダ文となる例文をもう一度みてみると、命令、疑問、強調、決意、詰問、願望を表すノダ文は、「ノダ」の代わりに終助詞をザンスと入れ替えても文意が変わらない。これは、ノダ文で復元される発話の意味<sup>9</sup>と、終助詞が表す意味が重なっているため、どち

---

<sup>9</sup>名嶋(2009)は、「命令」「決意」「忠告」「願望」等のノダ文を総称して「ノダ命令文」と呼び、ノダ命令文の特徴の一つは、復元される発話の意味の多様性であると指摘している。

らともでも言い換えることが可能となっている。また、改めてザンスが様々な文意で特に制限なく現れることと、ザンスが「ノダ」と終助詞の性質を持つことがわかる例文となっている。(23)~(27)を(34)~(38)として再掲する。

- (34) これからどこへいくザンス？[疑問文] (7:102)  
これからどこへいくの？
- (35) きみたちにおねがいがあるザンス！！[強調] (11:63)  
きみたちにおねがいがあるの！！
- (36) (独話で) ぜったいまもるザンス！！[決意] (16:210)  
ぜったいまもるぞ！！
- (37) このかおどうしてくれるザンス！！[詰問] (17:189)  
このかおどうしてくれるの！！
- (38) ミーはほんとの犯人がしりたいザンス！！[願望] (8:131)  
ミーはほんとの犯人がしりたいの！！

#### 4.5. 文法機能を持たないザンス

ザンスがダ・デス・ゴザイマスで言い換えられないとき、(39)のようにザンスの後ろに他の終助詞がある場合は、ザンスの位置に終助詞を持つてくることはできず、ザンスがφでも文意は変わらない。また、(40)のように「はい」「バイバイ」「いただきます」などの返事や挨拶にザンスがつく例文も見られたが、これらの返事や挨拶は通常一語で用いられるため、ザンスの代わりとなる「ふつう」の助詞等が存在しない。他に(41)もザンスの代わりとなる語が存在しない例文である。この場合のザンスは、文法機能を持っておらず、イヤミのキャラクター性を特徴づけるためだけの語となっている。

- (39) a. おフランスのたかいおくすりもってきたザンスよ！！ (9:225)  
おフランスのたかいおくすりもってきた{φ}よ！！
- b. よくそんなのたべられるザンスね (11:30)  
よくそんなのたべられる{φ}ね
- c. そうじするとおなかすくザンスねえ (21:229)

そうじするとおなかすく{φ}ねえ

- (40) a. はいザンス！！ (10:162)  
b. ではバイバイザンス (11:215)  
c. いただきますザンス (21:100)
- (41) a. うしろからやるとはひきょうなりザンス～ (11:16)  
b. しんじていいのかしらザンス (11:127)  
c. ははっ わかりましたでございましてザンス (19:199)  
d. へい かしこまりましたザンス (20:220)

## 5. ザンスの変化形

データ中では、イヤミのザンスに「ザンした」「ザンショ」等の変化形がみられた。

### 5.1. 「ザンした」

データ中で「ザンした」は13文現れた。「ザンした」は、「です」の過去形「で(=ザン)した」と考えられる。よって、言い換えは「でした」あるいは「ございました」で可能となる。「ザンした」が現れるのは、必ずしも丁寧表現が必要とされる場面ではないため、ザンスと同じく本来の丁寧な意味合いは含まれていない。

- (42) a. きょうも0点ザンした (12:51)  
きょうも0点{でした/ございました}
- b. ゆかいザンした (12:197)  
ゆかい{でした/ございました}
- c. あなたの船ザンしたか!! (22:114)  
あなたの船{でした/ございました}か!!

「ザンした」は基本的に、名詞と形容詞に後続して<sup>10</sup>過去の時制を表すが、例外もみられた。「ザンした」が現れず、(43)のように「だった+ザンス」で過去時制となる例文も1文みられたため、過去時制となる文にすべて「ザンした」が現れているわけではない。また、(44)aは、「さけんだ」が過去形のため、過去の時制を表す「ザンした」がさらに後続するのは不自然である。実際(44)bは非文となっており、(44)c「さけんだザンス」がイヤミの言葉として適切となるはずである。つまり、ザンスは前接要素に特に制限はみられなかったが、「ザンした」は名詞か形容詞に制限されていることがわかる。

- (43) おまえが犯人だったザンスか!! (8:138)
- (44) a. 宇宙人はしずかにさけんだザンした (19:197)  
b. \*宇宙人はしずかにさけんだでした  
c. 宇宙人はしずかにさけんだザンス

---

<sup>10</sup> データ中の「ザンした」が現れた13文中12文が、名詞か形容詞に「ザンした」が後続していた。

## 5.2. ザンショ

ザンショは「だろ」<sup>う</sup>と言換えることができる。ザンショは7巻から現れるが、後半19巻からはザンショの後ろに「う」がつくケースも現れるようになった。これは、「だろ<sup>う</sup>」の「う」がザンショの外に出てきているだけで、ザンショの後ろに「う」がつかないときと意味は変わらない。

- (45) a. チビ太くんはりょうしザンショ！！ (7:58)  
チビ太くんはりょうし{だろ<sup>う</sup>/でしょ<sup>う</sup>/ございませ<sup>う</sup>}！！
- b. このあいだおしえたザンショ！！ (11:46)  
このあいだおしえた{だろ<sup>う</sup>/でしょ<sup>う</sup>/ございませ<sup>う</sup>}！！
- c. たべたきゃかえばいいザンショ！！ (11:169)  
たべたきゃかえばいい{だろ<sup>う</sup>/でしょ<sup>う</sup>/ございませ<sup>う</sup>}！！
- d. チビ太め いまごろウロチョロミーをさがしてるザンショ (12:175)  
チビ太め いまごろウロチョロミーをさがしてる{だろ<sup>う</sup>/でしょ<sup>う</sup>/ございませ<sup>う</sup>}  
よう}
- e. まさかチーズじゃないザンショ<sup>う</sup>ね (19:205)  
まさかチーズじゃない{だろ<sup>う</sup>/でしょ<sup>う</sup>/ございませ<sup>う</sup>}うね

## 6. まとめ

本論文では、イヤミのザンスとゴザイマスが同じ文法機能を持つかどうかを分析した。ゴザイマスは、動詞「ある」の丁寧語、または断定や状態を表す補助動詞の丁寧語で、形容詞連用形のウ音便形について丁寧な表現となる。一方、ザンスは動詞として現れず、形容詞の後ろにザンスが後続する場合も形容詞は連用形のウ音便形で現れておらず、さらに、丁寧表現が必要な場面以外のあらゆるシーンで前接要素の制限なく現れるため、ゴザイマスとは用法が大きく異なった。

また、ザンスと「ダ」「デス」「ゴザイマス」や「ノダ」「ノデス」「ノデゴザイマス」との言い換えを試みることで、ザンスの持つゴザイマスにはない文法機能を探ることができた。結果、ザンスがノダ文におけるノダの役割を持ち、断定の助動詞や終助詞の性質を持つなど多様な文法機能を持つことがわかった。反対に、ザンスが $\phi$ のときで文意が変わらず、かつザンスの代わりとなる「ふつう」の語が存在しないで、イヤミのキャラクター性を特徴づけるためだけの語となって現れている場合もあり、ザンスの多面性を見てとることができた。「ザンした」においては、ザンスと異なり名詞か形容詞に後続するという制限がみられた。

## 参照文献

赤塚不二夫（2001）『これでいいのだ。-赤塚不二夫対談集』東京:メディアファクトリー

赤塚不二夫（2005）『おそ松くん』（文庫版）竹書房

東雅人（2009）「〈ヤクザことば〉について」卒業論文,大阪大学 金水敏(編)『役割語研究の展開』258-260.東京:くろしお出版:

泉谷双藏（2009）「終助詞としての『ダ』と『デス』」『東京医科歯科大学教養部研究紀要』39:1-18

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語役割語の謎(もっと知りたい!日本語)』岩波書店

笹間良彦（2010）『江戸っ子語絵解き辞典』東京:遊子館

名嶋義直（2003）「命令・決意・忠告・願望のノダ文」『言葉と文化』4:227-244

森川正博（2013）「命令文末の要素とそのカテゴリ」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』44:47-72

wikipedia「おそ松くん」

<<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8A%E3%81%9D%E6%9D%BE%E3%81%8F%E3%82%93>>

最終閲覧日 2018年1月9日



## 謝辞

本論文の作成にあたり、主査教官になっていただいた上山あゆみ先生には、ご多忙の中何度も面談やメールのやり取りを通して大変丁寧にご指導していただきました。また副査教官の久保智之先生、下地理則先生には授業を通して言語学に関する様々な知識を教えていただきました。その他お世話になった全ての皆様に深く感謝申し上げます。